

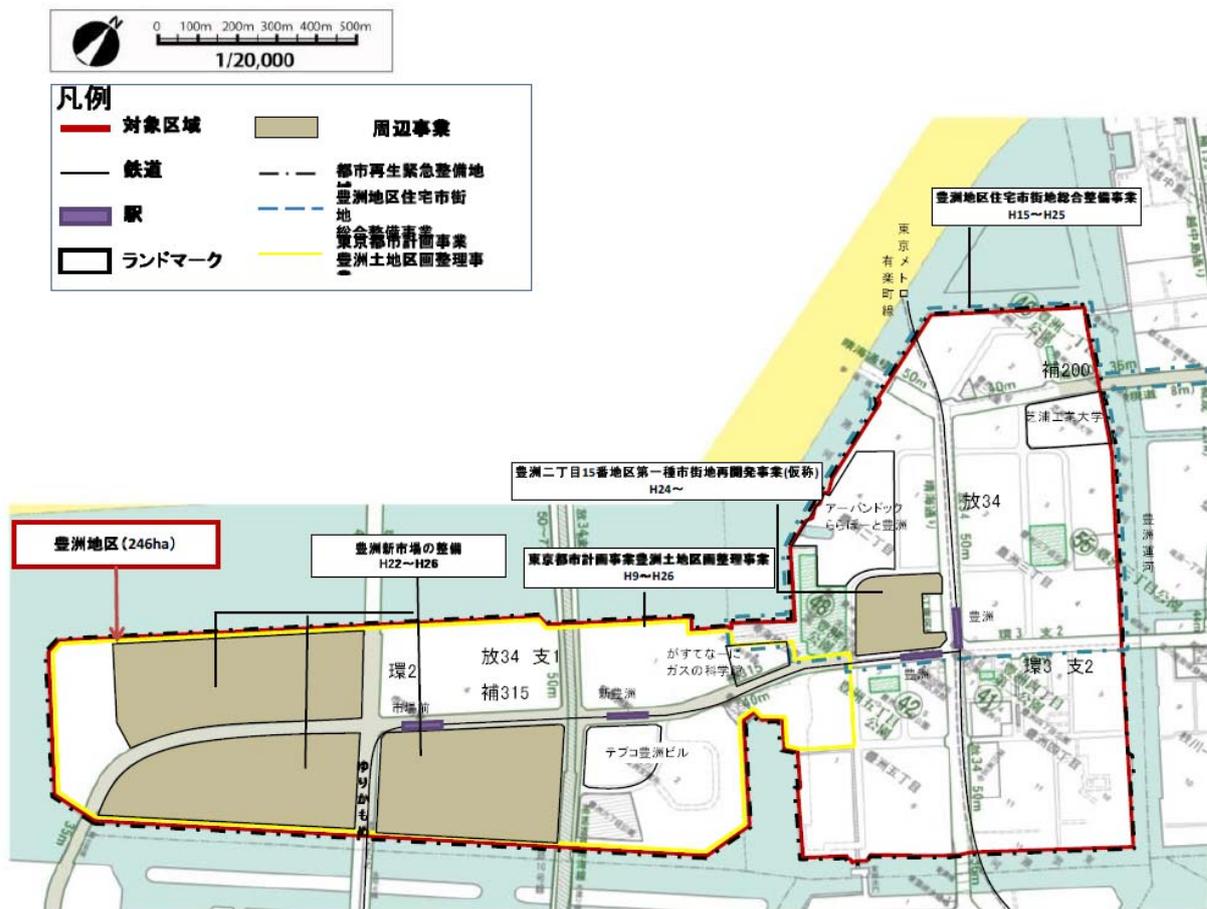
3. 大規模開発の進捗状況と鉄道需要との関係分析

東京都心部では2000年初頭からの都市再生特別措置法による容積率の緩和等により、駅周辺において大規模な再開発が活発に行われるようになってきている。沿線開発と一体化した交通施設整備の観点から、こうした大規模開発等が鉄道利用にどのように影響しているかを把握することが重要と考えられる。

ここでは、豊洲駅周辺地域を対象に大規模開発の進捗状況と鉄道需要との関係について分析を行った。

3-1 分析対象地域

以下に示す東京都江東区豊洲1～6丁目を対象とした。

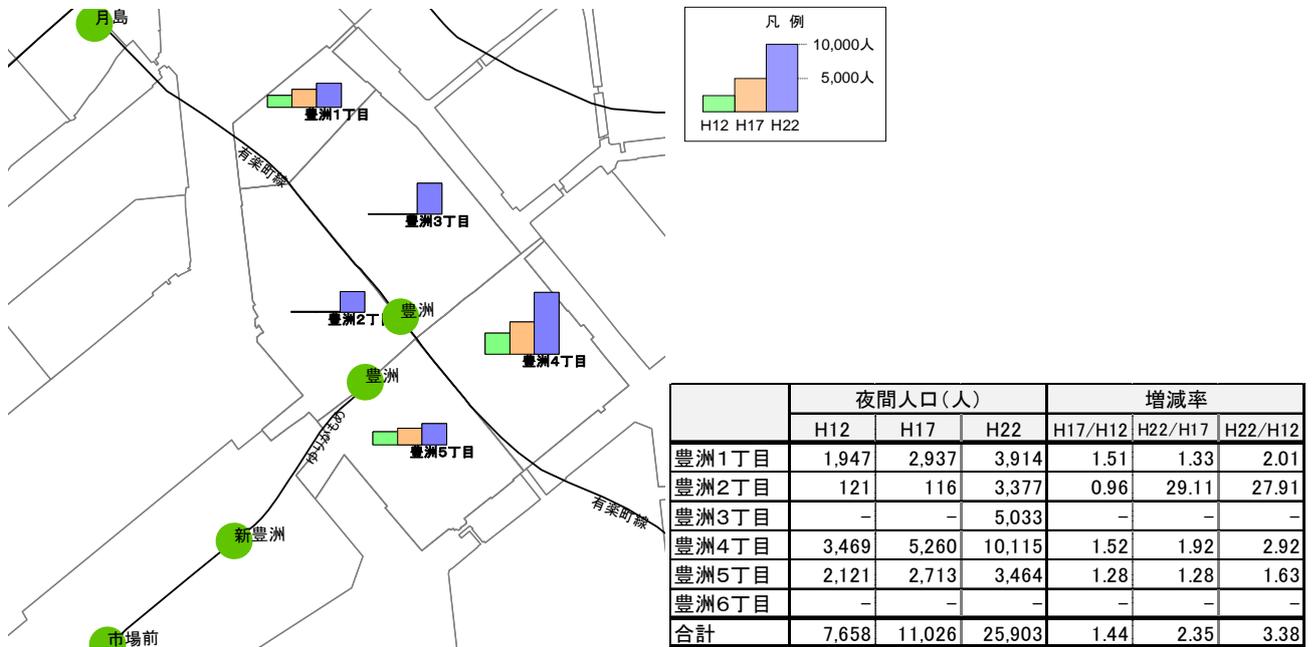


出典：社会資本総合整備計画(豊洲地区都市再生整備計画)(平成24年3月、江東区)

図IV-3-1 分析対象地区(豊洲地区)

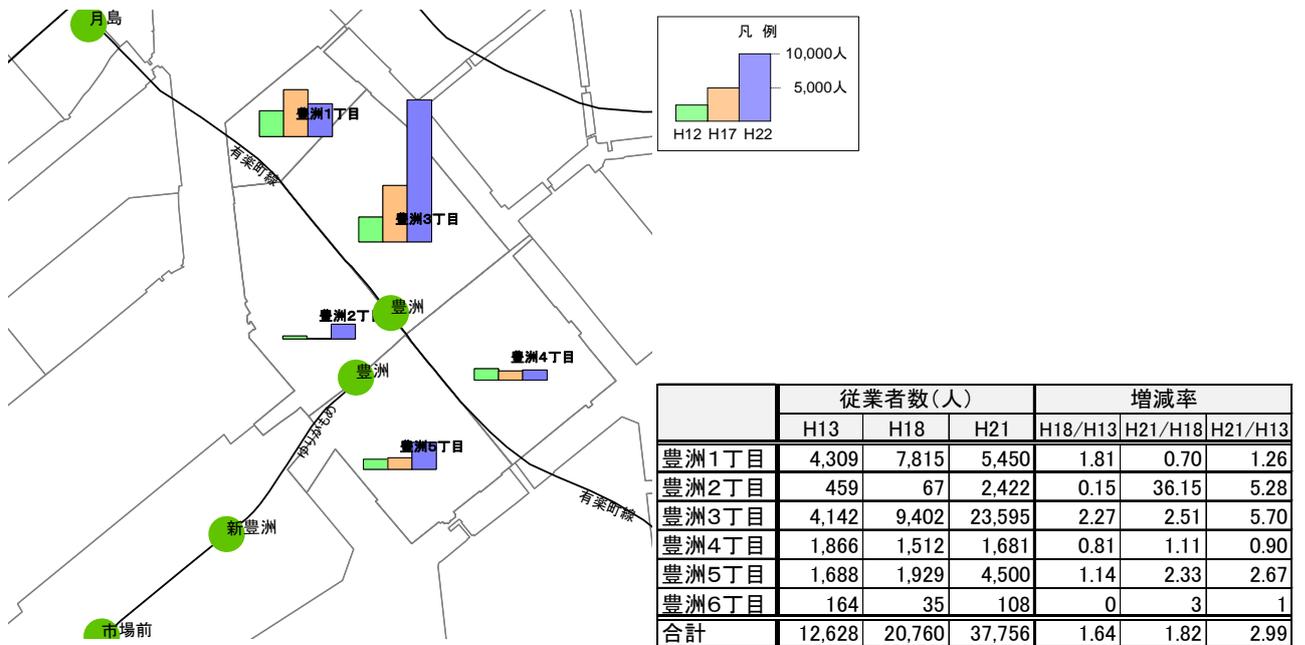
3-2 夜間人口・就業人口の変化

- ・豊洲地区の夜間人口をみると、平成17年の約1.1万人から平成22年には2.6万人と2倍以上に増加している。
- ・また、従業者数は平成18年から平成21年にかけて約2倍に増加している。



出典:国勢調査より作成。

図IV-3-2 豊洲駅周辺夜間人口の推移



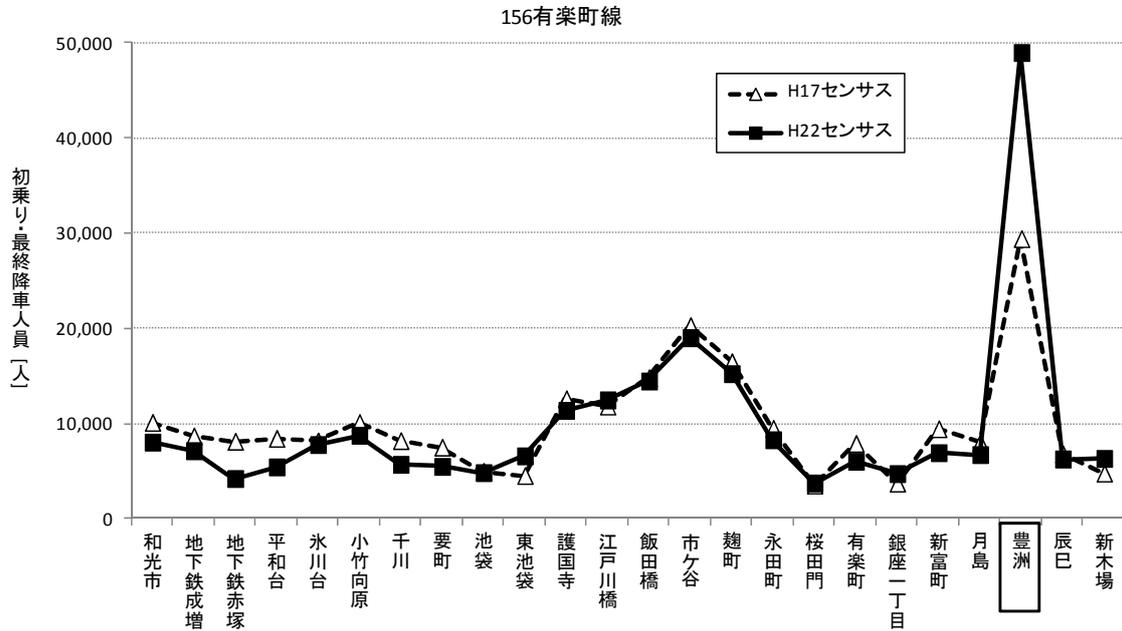
出典:事業所・企業統計調査(平成13年、平成18年)および経済センサス(平成21年)より作成。

図IV-3-3 豊洲駅周辺従業者数の推移

3-3 豊洲駅の初乗り・最終降車人員の変化

有楽町線豊洲駅での初乗り・最終降車人員の変化を以下に示す（図IV-3-4）。

他の駅と比べ、豊洲駅の利用者数の増加が顕著である。



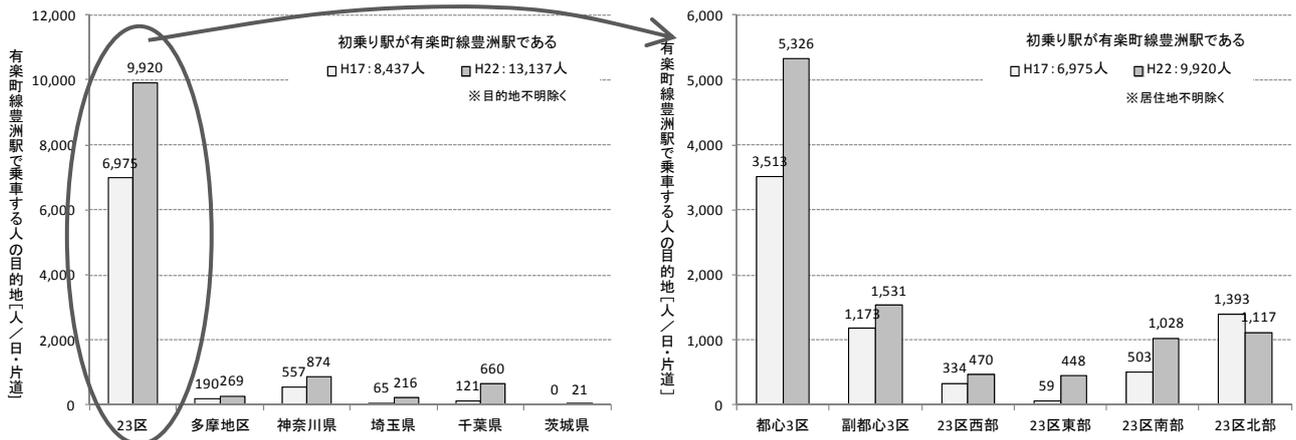
注)「鉄道定期券・普通券等利用者調査」より集計。

図IV-3-4 有楽町線各駅における初乗り・最終降車人員の変化(定期券利用者、通勤通学合計)

3-4 豊洲駅利用者の居住地・目的地分布

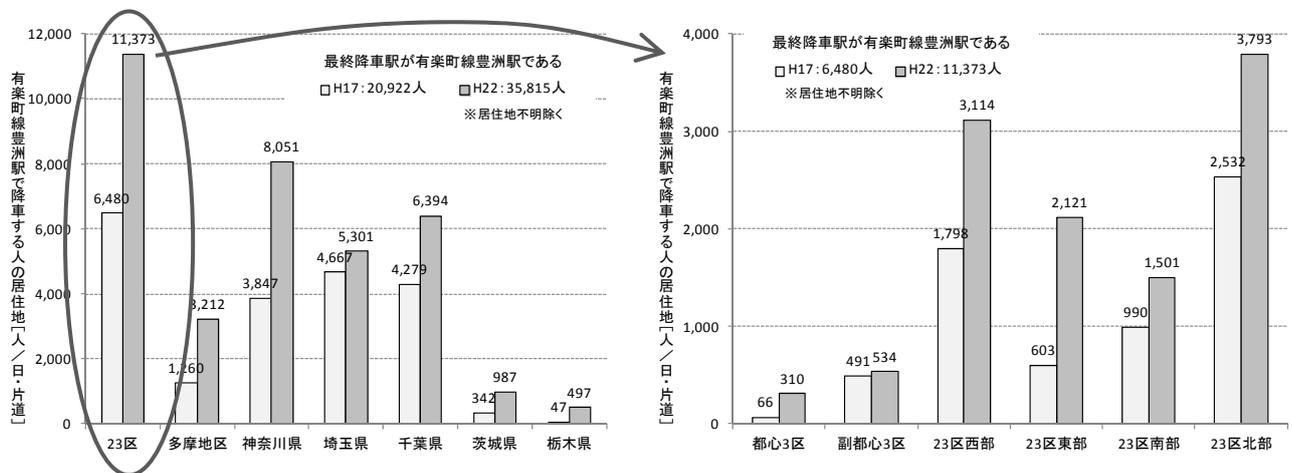
有楽町線豊洲駅について、最終降車利用者の居住地、初乗り利用者の目的地は以下の通りである（図IV-3-5～図IV-3-6）。

- ・豊洲駅初乗り利用者の目的地は、都区部の利用者が大半を占め、その中でも都心3区への通勤・通学者が多い。
- ・豊洲駅最終降車利用者の居住地をみると、都区部以外からの通勤・通学者も多く、平成17年から平成22年にかけての神奈川県からの通勤・通学者の増加が顕著である。



注)「鉄道定期券・普通券等利用者調査」より集計。

図IV-3-5 豊洲駅初乗り利用者の目的地構成(定期券利用者、通勤通学計)



注)「鉄道定期券・普通券等利用者調査」より集計。

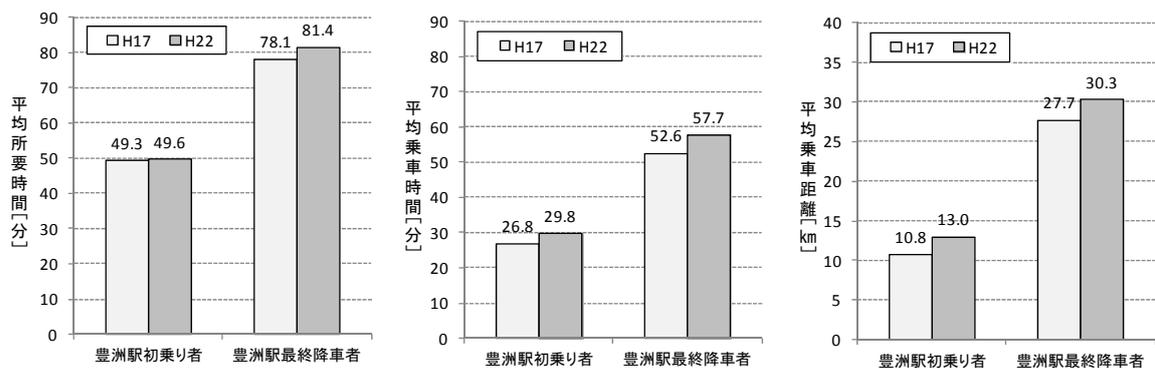
図IV-3-6 豊洲駅最終降車利用者の居住地構成(定期券利用者、通勤通学計)

都心3区 : 千代田区、中央区、港区	23区東部 : 墨田区、江東区、葛飾区、江戸川区
副都心3区 : 新宿区、渋谷区、豊島区	23区南部 : 品川区、目黒区、大田区
23区西部 : 世田谷区、中野区、杉並区	23区北部 : 北区、板橋区、練馬区、文京区、台東区、荒川区、足立区

3-5 有楽町線豊洲駅利用者の平均トリップ長

有楽町線豊洲駅初乗り利用者および最終降車利用者の平均所要時間、平均乗車時間、乗車距離については以下の通りである（図IV-3-7）。

最終降車利用者は、初乗り利用者に比べて所要時間、乗車時間、乗車距離が長くなっており、豊洲地区からの通勤・通学者は比較的近い地域に通勤・通学しているのに対して、豊洲地区への通勤・通学者は遠距離地域からの利用者が多いことがわかる。



注)「鉄道定期券・普通券等利用者調査」より集計。

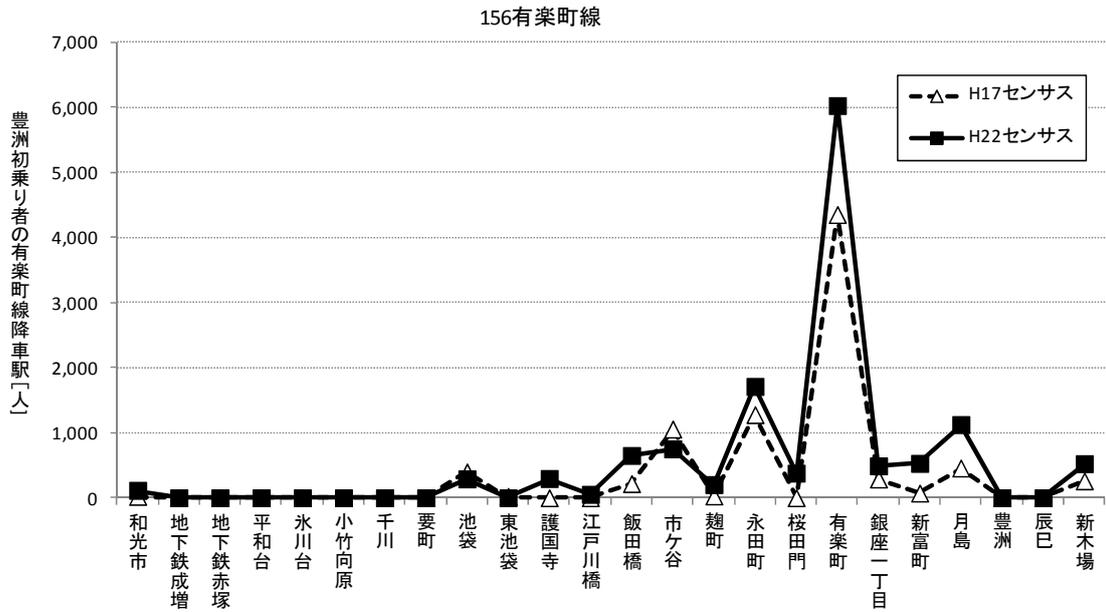
図IV-3-7 有楽町線豊洲駅初乗り・最終降車利用者の
平均所要時間・平均乗車時間・平均乗車距離の変化(定期券利用者、通勤・通学合計)

3-6 有楽町線豊洲駅利用者の乗換駅

(1) 有楽町線からの乗換駅

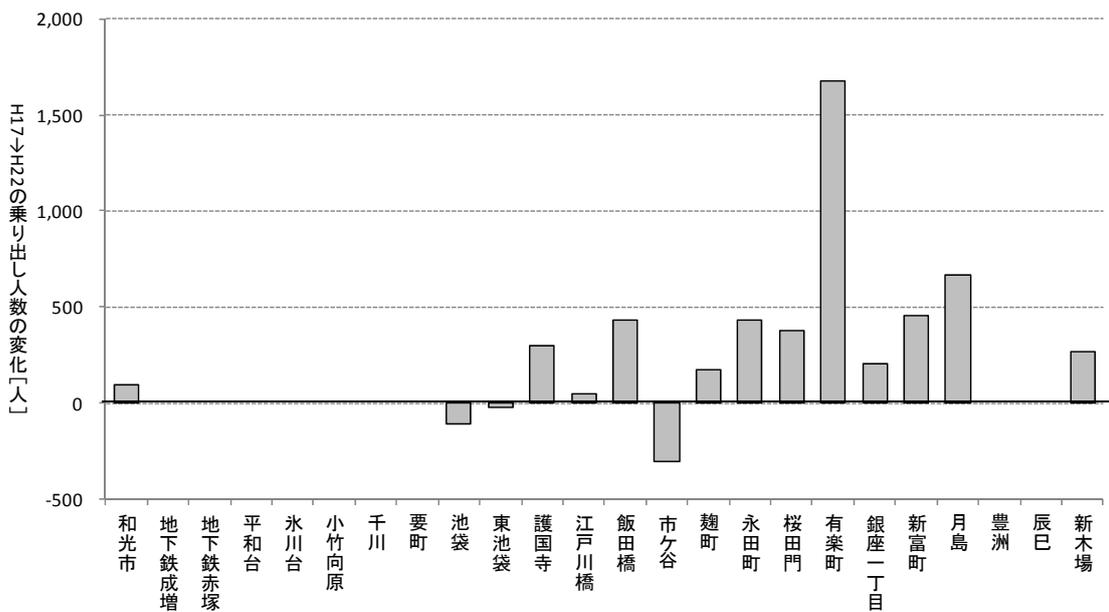
有楽町線豊洲駅の初乗り利用者について、有楽町線から他線への乗換状況を以下に示す(図IV-3-8～図IV-3-9)。

- ・有楽町駅での他線への乗換利用者が最も多くなっている。
- ・有楽町駅以外では、飯田橋駅、市ヶ谷駅、永田町駅、月島駅での乗換がみられる。



注)「鉄道定期券・普通券等利用者調査」より集計。

図IV-3-8 豊洲駅初乗り利用者の乗換駅(定期券利用者、通勤・通学合計)



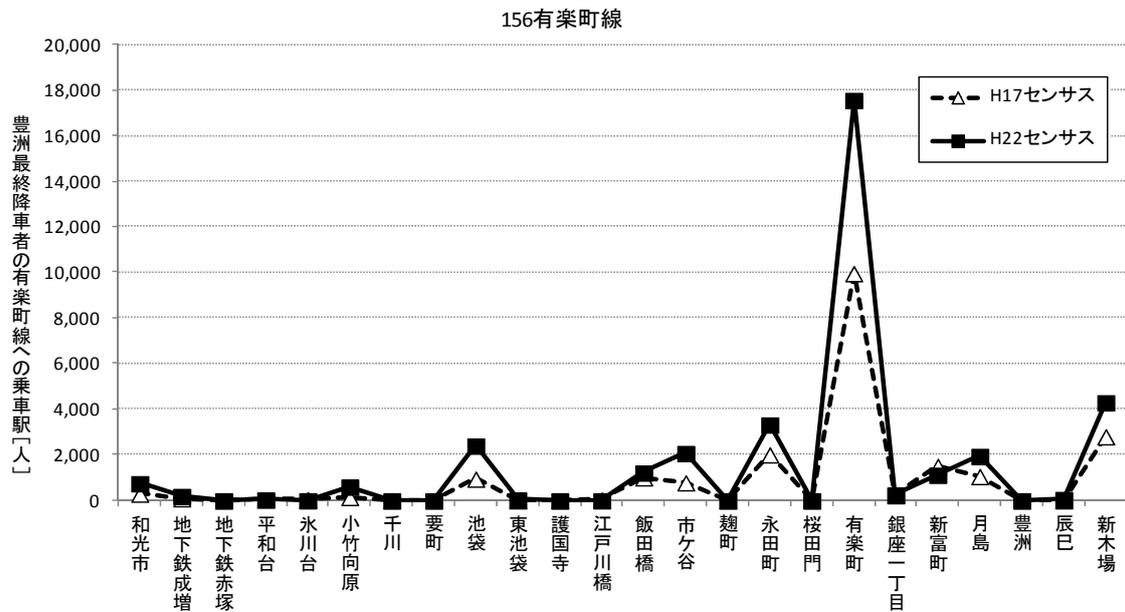
注)「鉄道定期券・普通券等利用者調査」より集計。

図IV-3-9 有楽町線からの乗換利用者数の変化(定期券利用者、通勤・通学合計)

(2)有楽町線への乗換駅

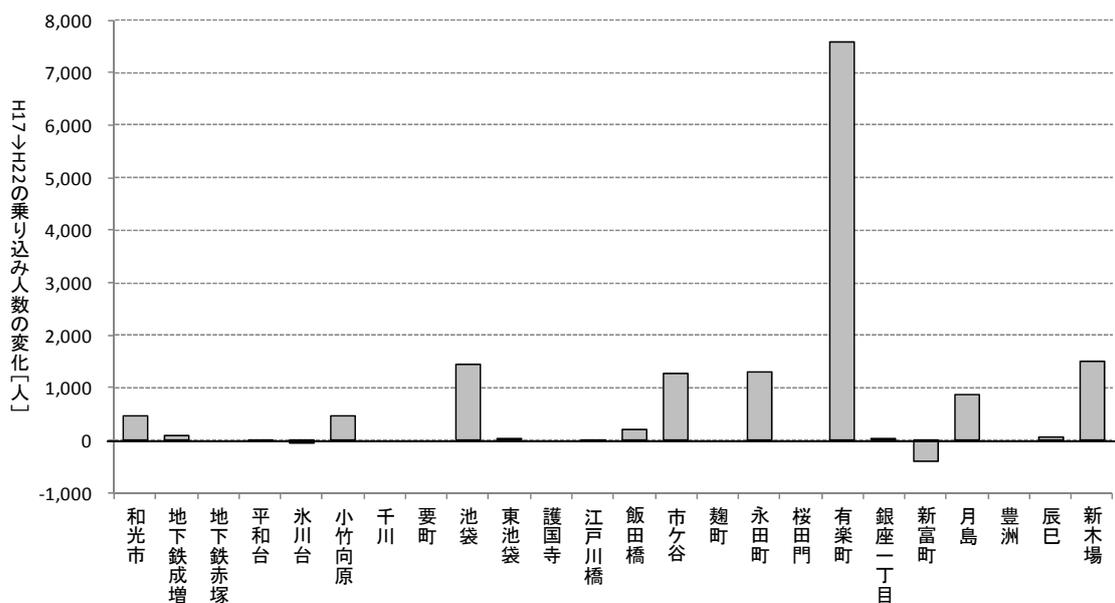
有楽町線豊洲駅の最終降車利用者について、他線から有楽町線への乗換状況を以下に示す（図IV-3-10～図IV-3-11）。

- ・有楽町駅の有楽町線への乗換利用者が最も多く、平成17年から平成22年にかけて2倍近く増加している。
- ・有楽町駅以外では、池袋駅、市ヶ谷駅、永田町駅、新木場駅での乗換がみられる。



注)「鉄道定期券・普通券等利用者調査」より集計。

図IV-3-10 豊洲駅最終降車利用者の乗換駅(定期券利用者、通勤・通学合計)



注)「鉄道定期券・普通券等利用者調査」より集計。

図IV-3-11 有楽町線への乗換利用者数の変化(定期券利用者、通勤・通学合計)